

教科等研究会（小学校外国語部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを伝え、
楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日 6/9	人数 28人	場所 小坂小	期日 8/8	場所 小坂小	小中合 同研修	期日 9/25	場所 矢部小	授業者 島田朝子 教諭	期日 1/26	場所 嘉島西 小	授業者 松本海咲 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマと研究の視点の設定及び研究組織づくり（期日：令和5年6月9日 場所：小坂小学校）

ア 研究テーマと研究の視点の設定

今年度の研究テーマを「主体的に自分の考えや思いを伝え、楽しくコミュニケーションを図ろうとする児童の育成」と設定した。そして、研究テーマに掲げる子どもの姿を実現するための授業づくりの視点を設定し、授業実践を行うこととした。

<研究テーマに掲げる子どもの姿を目指すための授業づくりの視点>

- (1) コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定
- (2) 外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実
※「音声から文字へ」を意識
- (3) 言語活動の充実

イ 研究組織づくり

今年度は、部会内に次のような部を設置した。会員全員がいずれかの部に所属することで、研修の運営に参画できるようにした。

- 研究部・・・研修内容の企画、事前研への参加、研修の運営等の研究推進に関わる。
※メンバーは希望者で構成する。
- 中学年部・・・外国語活動の研究授業、授業研究会を運営する。
※メンバーは主に3・4年の担任で構成する。
- 高学年部・・・外国語科の研究授業、授業研究会を運営する。
※メンバーは主に5・6年の担任で構成する。

② 授業づくり研修（期日：令和5年8月8日 場所：小坂小学校）

夏季休業中の期間に、小中合同での外国語の授業づくり研修を行うことを計画した。研修の中では、義務教育課英語・日本語教育推進室の太田指導主事から講話をいただいた後に、中学校区単位で情報共有を行った。コロナ禍では開催できなかったが、昨年度からまた小中合同の研修が開催でき、小学校と中学校それぞれが、互いの英語授業や取組について理解を深める良い機会となった。

③ 外国語活動の授業実践（期日：令和5年9月25日 場所：矢部小学校）

第4学年「What do you want?」の授業実践を行った。「友達が喜ぶパフェを作ろう」という単元のゴールに向かって児童が「わくわく」するような単元デザインがなされていた。授業では、児童が単元のゴールに向かって意欲的に英語でやり取りをする姿が見られた。授業研究会では、成果と課題を出し合い、改善策までを話し合うことができ、学びの多い研修になった。

④ 外国科の授業実践（期日：令和6年1月26日 場所：嘉島西小学校）

第6学年「My Best Memory」の授業実践を行った。授業では、「小学校生活で一番の思い出をスピーチしよう」という単元のゴールに向かって、児童が意欲的に発表し合う姿が見られた。「音声から文字へ」ということや既習事項の活用を強く意識して授業が進められており、本研究テーマに迫る学びの多い研修になった。

(2) 成果と課題（成果○ ▲課題）

- 授業づくりの視点を明確にしたことで、授業実践の際に、それらを意識した指導の工夫がなされるようになった。また、事前研にも多くの先生方の参加があり、充実した事前研となった。

- 組織づくりを工夫したことで、過度の負担なく部会員が協力し合って研修会を運営することができた。
- 授業実践では、単元のゴールとなる言語活動の設定や単元デザイン等にたくさんの工夫がなされており、部会員に多くの学びがあった。特に、今年度は、以前から課題だった「音声から文字へ」も非常に意識されており、教師の意識の変容は、上益城の英語教育の向上につながった。
- ▲ 夏季研修を、中学校と合同でできたことは良かったが、地域間や小学校中学校間でも外国語科の授業づくりについては、様々な実態や教師の意識の差があることが明らかとなった。外国語の授業づくりについて学び、さらに理解を深めるためにも、夏季研修の内容をさらに工夫していく必要がある。

4 実践事例（期日：令和5年9月25日 場所：山都町立矢部小学校）

(1) 授業の概要（授業者 島田 朝子 教諭）

本単元では、単元のゴールとなる言語活動として「友達を喜ばせるパフェを作ろう」を設定した。相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり、自分が欲しい食材を伝えたりするやり取りをしながら友達にパフェを作る活動を行う。学習課題の解決に向けて、歌やチャンツなどを音声で十分に慣れ親しみ、「What do you want? I want～」という表現を使ったやり取りを友達と繰り返しながら、最後のオリジナルパフェを作り合う活動につなげた。

本時では、これまで慣れ親しんできた表現を用いながら、友達が喜ぶおもてなしパフェを作り合うために英語でやり取りする活動を行った。パフェづくりには、タブレットを用いるなど、効果的なICTの活用もされていた。また、慣れ親しんだ表現でやり取りするだけでなく、より分かりやすく伝えるために、既習事項を加えて話したり反応したりして、自分なりに工夫しながら伝え合う児童の姿が見られた。



友達へのオリジナルパフェを作るためにやり取りし合う児童の様子

(2) 学習構想案

① 単元構想

単元名	What do you want? (Let's try2 Unit7)		
単元の目標	(1) 食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。【知識及び技能】 (2) 欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。【思考力、判断力、表現力】 (3) 相手に伝わるように工夫しながら、何が必要か尋ねたり答えたりしようとする。【学びに向かう人間性】		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【話すこと（やり取り）】 野菜や果物などについて、 What do you want? I want ~, please . などを用いて欲しいものを尋ねたり要求したりすることに慣れ親しんでいる。	【話すこと（やり取り）】 友達へ日頃の感謝の気持ちを伝えるおもてなしパフェを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材などを尋ねたり要求したりしている。	【話すこと（やり取り）】 友達へ日頃の感謝の気持ちを伝えるおもてなしパフェを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材などについて尋ねたり要求したりして伝え合おうとしている。
※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。			
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり要求したりして伝え合おうとする児童			

単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方
友達に日頃の感謝を伝えるパフェのプレゼントをするために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり要求したりして伝え合おう。	互いの欲しい食材やオリジナルメニューについて、尋ねたり伝えたりする表現を工夫すること。

指導計画と評価計画（5時間取扱い 本時4/5）			
週	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○単元のゴールを確認する。 ○果物や野菜、欲しいものを尋ねたり要求したりするなどの表現に慣れ親しむ。 ○世界の市場の様子について知り、日本との相違点や共通点について考える。	本時では、記録に残す評価はしないが、目標に向けて指導を行う。
二	1	○欲しいものを尋ねたり要求したりするなどの表現に慣れ親しむ。 ○お店屋さんとお客さんに分かれて、スペシャルピザを作るためにやり取りする。	「話すこと（やり取り）」 【知】（ワークシート、行動観察）
三	1	○欲しいものを尋ねたり要求したりするなどの表現に慣れ親しむ。 ○お店屋さんとお客さんに分かれて、スペシャルピザを作るためにやり取りする。 ○自分のスペシャルピザを紹介する。	「話すこと（やり取り）」 ★【知】（行動観察、振り返りシート） 「話すこと（やり取り）」 ★【思】（行動観察、振り返りシート）
四	1	○パフェのトッピングメニューに慣れ親しむ。 ○友達とのやり取りをして、おもてなしパフェを作る。【本時】	「話すこと（やり取り）」 ★【思】（行動観察、振り返りシート） 「話すこと（やり取り）」 ★【主】（行動観察）
五	1	○友達とのやり取りをして、おもてなしパフェを作る。 ○完成したおもてなしパフェをお互いに紹介し合う。	「話すこと（やり取り）」 ★【思】（行動観察、振り返りシート） 「話すこと（やり取り）」 ★【主】（行動観察）

② 研究の視点

授業づくりの視点についての取組
<p>①コミュニケーションへの興味・関心や意欲を高める単元の学習課題の設定</p> <p>・友達に日頃の感謝の気持ちを伝えるおもてなしパフェを作るために、「友達が喜ぶおもてなしパフェを作ろう」という単元のゴールを設定し、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり、自分が欲しい食材を伝えたりするやり取りをして、完成したパフェをみんなに紹介し、喜びと感謝の気持ちを伝える活動をすることで、相手意識、学習に対する意欲と見通しを持たせる。</p>
<p>②外国語に十分慣れ親しんだり、知識・技能を定着させたりする活動の充実</p> <p>・毎時間、歌や「バナナチャンツ」を行うことで、声を出しやすくし、英語の発音・表現に慣れ親しませる。果物や野菜や食材（ピザやパフェの材料）の言い方に慣れ親しむために、リズムボックスを使って、リズムやビートにのって語彙練習をすることで、欲しい果物や野菜や食材（ピザやパフェの材料）が、会話の中で言えるようにする。さらに、【Let's Chant】What do you want? p. 27 を繰り返し使って表現練習をし、欲しいものを尋ねたり要求したりするときに活用できるようにする。</p>
<p>③言語活動の充実</p> <p>・単元を通した学習課題の、相手に伝わるような工夫とは、どのようなものかを考えさせ、いくつかのコミュニケーションポイントを意識して、教師とALTのやり取りを聞いたり、教師、ALT、友達とやり取りしたりする活動をする。中間評価で、工夫して対話できたか、言いたいけど言えない表現について尋ねたり、既習表現で伝えられないか考えさせたりして、改善して、友達との対話を繰り返すことで、児童が話したいことが伝わるようにしていく。</p>

③ 本時の学習

ア 目標

相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材を尋ねたり、要求したりする。

イ 展開 4/5

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10分	<p>1 初めの活動 ○あいさつ ○ベーシッククエスチョン ○ペアトーク ○Let's sing ○Banana Chant</p> <p>2 前時までの学習を振り返る ○どんな表現を学習していますか? ◇What do you want?◇I want ~, please. ◇How many? ◇Two, please. ○この表現を使って何を作ったかな? ◇自分のスペシャルピザを作った。 ○今日は、ピザではなくて、単元のゴールのパフェを作るよ。誰に?◇友達。</p> <p>3 めあてを確認する。</p>	<p>○基本的な挨拶やALTからの質問で授業を開始し、英語の学習の意欲を高める。 ○メニューボードを活用し、学習への見通しを持たせる。 ○歌とバナナチャンツを行うことで、声を出しやすくし、英語の発音・表現に慣れ親しみ学習への意欲を高める。</p> <p>○単元の1時で行った教師とALTのデモンストレーションを見せ、本時への学習へと誘導する。 ○相手に伝わる工夫として、「5つのコミュニケーションポイント」を想起させて意識して対話ができるようにする。</p>
<p>【Today's goal】 ほしいものを尋ねたり要求したりして友達が喜ぶおもてなしパフェを作ろう！</p>			
展開	30分	<p>4 必要な語彙と表現について練習する。 ○パフェのトッピングメニューにある語彙に慣れ親しむ。 ◇Vanilla icecream ◇Banana ◇Cherry など ○欲しい物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ◇What do you want?◇I want ~, please. ◇How many? ◇Two, please. ◇OK! small or Big? ◇Big, please.</p> <p>5 友達とやり取りをして、おもてなしパフェを完成させる。 ○1回やり取りをして、途中でよりよいやりとりを視聴して、改善する。(中間評価) ◇○○の言い方が難しい。◇返事がいいね。 ◇声を大きくしたほうが聞き取りやすいね。 ◇○○さんのように、繰り返すと間違えにくくなるね。 ◇ジェスチャーがあるとよりわかりやすい。 ○2回目のやり取りをする。</p> <p>【期待される学びの姿】 ●友達が喜ぶおもてなしパフェをつくるために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。</p> <p>○友達のために作ったパフェの画像を、友達のロイロノートに送る。</p>	<p>○必要な語彙や表現をビートに合わせて何度も言ったり聞いたりして慣れ親しませるようにする。</p> <p>○ほしいものの尋ね方や伝え方をリズムに合わせて繰り返し練習し安心して工夫して活動できるようにする。</p> <p>○ICT (ロイロノート) を使用して活動を行う。 ○既習の表現を使って会話が続くよう意識させる。 ○より良いやり取りを紹介し、いいところに気づかせる。 ○言えなかった表現や困ったことを聞き、全体で共有する。</p> <p>【評価規準】 【話すこと (やり取り)】 ＜思考・表現・判断＞ (振り返りシート、行動観察) 友達が喜ぶおもてなしパフェを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、欲しい食材などについて尋ねたり要求したりして伝え合っている。 ＜主体的に取り組む態度＞ (行動観察) 相手が必要なものや考えをふまえて、尋ね方や答え方、伝える工夫をしながら、積極的に伝え合おうとしている。</p> <p>【到達していない児童への手立て】 ○モデルを示したり、キーワードを補足したりして活動を支援し、自信をつけさせる。 ○伝える工夫の5つのポイントを想起させる。</p>
終末	5分	<p>6 学習したことや自己の学びの変容を振り返る。 ◇学習した表現を使って、自分の欲しいものを伝えることができた。 ◇相手に伝わるように、声を大きくしたり、笑顔でリアクションしたりして工夫した。 ◇友達が作ってくれたパフェをみんなに紹介したい。</p>	<p>○本時の学習の振り返りシートに記入し、発表し合うことで学びを共有する。 ○それぞれから、活動に対する気づきを述べる。</p>